製品安全データーシート(MSDS)

作成　平成 23 年 6 月 23 日
改訂　平成 23 年 6 月 30 日

１．化学物質等及び会社情報

製品
　製品名：　バイトルWコートスプレー
　管理番号：　ＭＳＤＳ－ＣＨ０８－Ｊ０４
供給者情報
　会社名　株式会社ソディック
　住所　〒919-0598　福井県坂井市坂井町長屋 78

　担当部署　ＣＥ本部　商品センター
　電話番号　0776-68-0030
　ＦＡＸ番号　0776-66-8078
　緊急電話番号　0776-68-0057　月曜日～金曜日　8：30～17：00
推奨用途及び使用上の制限：塗料

２．危険有害性の要約

重要危険有害性及び影響
GHS 分類
物理化学的危険性

可燃性／引火性エアゾール	区分 2
引火性液体	区分 2

健康に対する有害性

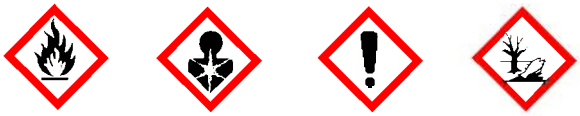
急性毒性(経口)	分類できない
急性毒性(経皮)	区分外
急性毒性(吸入：ガス)	区分外
急性毒性(吸入：蒸気)	区分外
急性毒性(吸入：粉塵、ミスト)	区分外
皮膚腐食性/刺激性	区分 2
眼に対する重篤な損傷性/目刺激性	区分 2A
呼吸器感作性	分類できない
皮膚感作性	分類できない
生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	区分 2
生殖毒性	区分 1A
授乳に対する影響	分類できない
標的臓器/全身毒性(単回曝露)	区分 1(血管) 区分 3(麻酔作用)
標的臓器/全身毒性(反復曝露)	区分 1(中枢神経系、末梢神経系)
吸引性呼吸器有害性	分類できない

環境に対する有害性

水生環境有害性(急性)	区 1
水生環境有害性(慢性)	区 2

ラベル要素

絵表示



注意喚起語　危険

危険有害性情報
H223 可燃性／引火性のエアゾール
H225 引火性の高い液体および蒸気
H315 皮膚刺激
H319 重篤な眼への刺激性
H336 （麻酔作用）眠気またはめまいのおそれ
H351 発がんのおそれの疑い（他の経路からの暴露が有害でないことが決定的に証明されている場合、有害な暴露経路を記載*）
H360 生殖能または胎児への悪影響のおそれ（もし判れば影響の内容を記載する）または（他の経路からの暴露が有害でないことが決定的に証明されている場合、有害な暴露経路を記載）
H370 臓器の障害（もし判れば影響を受ける全ての臓器を記載する）（他の経路からの暴露が有害でないことが決定的に証明されている場合、有害な暴露経を記載）
H372 長期または反復暴露による臓器の障害（もし判れば影響を受ける全ての臓器を記載する）（他の経路からの暴露が有害でないことが決定的に証明されている場合、有害な暴露経路を記載）
H400 水生生物に非常に強い毒性あり
H411 長期的影響により水生生物に毒性あり

取扱注意
［予防策］
（製造者／供給者または規制所管官庁が指定する）保護手袋および保護眼鏡／保護面を着用すること。（P280）
（製造者／供給者または規制所管官庁が指定する）保護手袋を着用すること。（P280）
（製造者／供給者または規制所管官庁が指定する）保護眼鏡／保護面を着用すること。（P280）
（製造者／供給者または規制所管官庁が指定する）防爆型の電気機器／換気装置／照明機器／機器を使用すること。（P241）
（静電気に敏感な物質を積みなおす場合は、）（製品が危険有害な気体を発生させるような揮発性の場合は、）容器および受器を接地すること。（P240）
く（必要な時以外は、）>環境への放出を避けること。（P273）
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。（P270）
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。（P202）
使用前に取扱説明書を入手すること。（P201）
加圧容器：使用後穴をあけたり燃やしたりしないこと。（P251）
取扱い後はよく洗うこと。（P264）
取扱後は手をよく洗うこと。（P264）
容器を密閉しておくこと。（P233）
屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。（P271）
必要に応じて個人用保護具を使用すること。（P281）

火災を発生しない工具を使用すること。（P242）
熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけること。－禁煙。（P210）
粉じん／ヒューム／ガス／ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。（P260）
粉じん／煙／ガス／ミスト／蒸気／スプレーの吸入を避けること。（P261）

［対　応］　＜（水がリスクを増大させる場合）＞火災の場合には、消火に（製造者／供給者または規制所管官庁が指定する適当な手段.）を使用すること。（P370+P378）
＜（緊急の処置が必要な場合）＞特別処置（このラベルの補足の応急処置指示参照）（P321）
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。（P304+P340）
暴露した場合：医師に連絡すること。（P307+P311）
暴露または暴露の懸念がある場合：医師の診断／手当を受けること。（P308+P313）
気分が悪い時は、医師に連絡すること。（P312）
気分が悪い時は、医師の診断／手当てを受けること。（P314）
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。（P362）
漏出物を回収すること。（P391）
特別処置（このラベルの補足の応急処置指示参照）＜（製造者／供給者または規制所管官庁が指定する洗浄剤を記載しても良い。）＞（P321）
皮膚（または毛）にかかった場合：直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと／取り除くこと。皮膚を流水／シャワーで洗うこと。（P303+P361+P353）
皮膚についた場合：多量の水と石鹸で洗うこと。（P302+P352）
皮膚刺激が生じた場合、医師の診断／手当てを受けること。（P332+P313）

［保　管］　＜（製品が危険有害な空気を発生させるほど揮発性の場合）＞容器を密閉して換気の良いところで保管すること。（P403+P233）
施錠して保管すること。（P405）
日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。（P410+P412）
涼しい所／換気の良い場所で保管すること。（P403+P235）

［廃　棄］　内容物／容器を（国際／国／都道府県／市町村の規則に従って）廃棄すること。（P501）

GHS 分類に該当しない危険有害性
※非常に燃えやすい液体である。
※蒸気が滞留すると爆発の恐れがある。
※有機溶剤中毒を起こす恐れがある。
※発がん性の疑いがある物質を含有している。
※ｱﾚﾙｷﾞｰ症状を引き起こす恐れがある物質を含有している。
※変異原性の恐れがある物質を含有している。

３．組成・成分情報（混合物・危険有害性物質を対象）

単一製品・混合物の区別：　混合物
化学命又は一般名：有機溶剤、石油系溶剤および防錆添加剤と液化ガス
別名：Organic/petroleum solvents, the rust preventive additives and liquefied gas
成分及び含有量：有機溶剤混合物　　40～50wt%
　　石油系溶剤　　1～5wt%

防錆添加剤　　1～10wt%
液化ガス　　40～50wt%
化学特性(化学式)：　特定できない

国内法危険有害成分：
化学物質管理促進法：　No.300 トルエン第一種指定化学物質　0.9wt%
No.392 ノルマルヘキサン第一種指定化学物質 17.2wt%

労働安全衛生法　第57条表示対象物：　No.2 の3 イソプロピルアルコール　0.9wt%
No.23 トルエン　0.9wt%

労働安全衛生法　第57条の2通知対象物：No.232　シクロヘキサン　22.6wt%
No.520　ノルマルヘキサン　17.2wt%
No.494　プロピルアルコール　4.5wt%
No.551　ミネラルスピリット　4.1wt%
No.407　トルエン　0.9wt%
No.170　固形パラフィン　1.0wt%
No.168　鉱油　0.5wt%

毒物劇物取締法：　非該当

成分名 (別名)	CAS No.	含有濃度 (質量%)	化学式又は 構造式	官報公示整理番号 (化審法)	PRTR法
トルエン	108－88－3	0.9	C_7H_8	3-2 3-60	第一種指定物質
ｲｿﾌﾟﾛﾋﾟﾙｱﾙｺｰﾙ	67-63-0	4.5	C_3H_8O	2-207	対象外
シクロヘキサン	110-82-7	22.6	C_7H_{13}	3-2233	対象外
ノルマルヘキサン	110-54-3	17.2	C_6H_{14}	2-6	第一種指定物質
固形パラフィン	明記できない	1.0	明記できない	明記できない	対象外
鉱油	明記できない	0.5	明記できない	明記できない	対象外
ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ	64742-82-1	4.1	明記できない	明記できない	対象外
ｼﾞﾒﾁﾙｴｰﾃﾙ	115-10-6	40.0～50.0	C_2H_6O	2-360	対象外

４．応急処置

以下のいずれの場合も医師の手当を受けること。

目に入った場合　：直ちに、清浄な大量の水で15分以上洗い流す。まぶたの裏まで完全に洗うこと。
次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。できるだけ速く医師の診断を受ける。
直ちに医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合　：直ちに全ての汚染された衣類を取除くこと。
付着物を布にて素早くふき取る。
大量の水及び石鹸又は皮膚用の洗剤を使用して充分に洗い落とす。
溶剤、シンナーは使用しないこと。
ガスの付着を受け、凍傷となった場合には衣服は脱がせず、そのまま多量の水または温水で洗い流す。

外観に変化が見られたり、痛みがある場合には医師の診断を受けること。

吸入した場合	:蒸気、ガス等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、直ちに空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で、暖かくし安静にすること。呼吸が不規則か止まっている場合には人工呼吸を行う。気分が悪い時は、医師に連絡すること。嘔吐物は飲み込ませないようにする。 直ちに医師の診断を受けること。
飲み込んだ場合	:誤って飲み込んだ場合には、安静にし、直ちに医師の診断を受けること。 嘔吐物は飲み込ませないこと。 被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。 医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。
最も重要な兆候及び症状	:特になし
応急措置をする者の保護	:救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。 火気に注意する。換気を行う。
医師に対する特別注意事項	:特になし

５．火災時の措置

消火剤	:炭酸ガス、泡消火剤、粉末消火剤
使用してはならない消火剤	:棒状水、高圧水
火災時特有の危険有害性	:火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがある。 燃焼ガスには一酸化炭素等の有害ガスが含まれるので、煙の吸入を避ける。 内溶液は極めて燃え易い、熱、火花、火災で容易に発火する。
特有の消火方法	:作業は風上から行い、関係者以外の立ち入りを禁止する。 可燃性の物を周囲から素早く取り除くこと。 指定の消火器を使用すること。 火災の現場にエアゾール容器があると破裂する恐れがあるので、消火活動には距離を十分に取り、高温にさらされる製品容器には水等をかけて冷却する。 火災発生場所周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
消火を行う者の保護	:消火者は必ず適切な保護具（耐熱着衣、保護眼鏡等）を着用し、有毒ガスが発生する為、空気呼吸器等を装備する。

６．漏洩時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急措置	:曝露防止の為、作業の際には適切な保護具(保護手袋、防護ﾏｽｸ、ｴﾌﾟﾛﾝ、ｺﾞｰｸﾞﾙ等)を着用する。 漏れ発生時（噴出時）には風上より処置を行うようにし、容器の漏出部は上向きにし、完全にガスを噴出させてから処置をする。 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 付近の着火源、高温体及び付近の可燃物を素早く取り除き、風下の人を避難させ、関係者以外の立ち入りを禁止する。 着火した場合に備えて適切な消火器を準備する。 密閉した場所に入る前に換気する。 衝撃・加熱を避ける。 回収作業においては、火花を発生しない安全なシャベル等を使用する。
環境に対する注意事項	:漏出液を下水や側溝等に流してはならない。 河川等へ排出され、環境への影響を起こさないよう注意する。
封じ込め及び浄化の方	漏出液を密閉式の容器に集め、残留液を砂又は不燃性吸収剤に吸収させて安全な場

法機材　所に移す。
回収するには清潔な帯電防止工具を使用する。
漏出物は密閉できる容器に回収し、安全な場所に移す。
付着物、廃棄物などは関係法規に基づいて処置すること。
河川等へ排出され、環境への影響を起こさないよう注意する。

二次災害の防止策　:付近の着火源となるものを速やかに取除くとともに消火剤を準備する。
漏出物の上をむやみに歩かない。
衝撃・静電気で火花を発生しない工具を使用する。
蒸気発生の多い場合は、噴霧注水で蒸気発生を抑制する。

7．取扱い及び保管上の注意（関連法規に準拠して作業すること）

取扱い

技術的対策　:使用時には、使用者にかからないように風の流れを背後から受けるようにすること。
周辺で火気、スパーク、高温物の使用を禁止する。
火炎に向かって噴射してはならない。
温度が高くなる場所に置くと、容器が破裂する恐れがある。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、または引きずるなどの取扱いをしてはならない。

局所排気・全体換気　:取扱う場合は、局所排気内、または全体換気設備のある換気のよい場所で取り扱う。

注意事項　密閉された場所における作業には、十分な局所排気装置を付け、適切な保護具をつけて作業すること。
作業中は静電気対策を行い、作業衣、作業靴等は通電性の物を使用する
静電気対策の為、装置等は接地し、電気機器類は防爆型(安全増型)を使用する。
工具は火花防止型のものを使用する。
使用済みｳｴｽ、塗料ｶｽ、ｽﾌﾟﾚｰﾀﾞｽﾄ等は積み重なると自然発火する恐れがあるので、廃棄するまで水につけておく。
過去にｱﾚﾙｷﾞｰ症状を経験している人は取扱わないこと。
塗料製品、廃塗料などは、悪臭防止法の悪臭物質に該当するので、塗料等はこの法規に準じて行う。

安全取扱い注意事項　:蒸気の吸入、皮膚への接触を避ける。
皮膚、粘膜又は着衣に触れたり、目に入らぬように保護具を着用する。
取扱い後は手、顔等を良く洗い、休憩所等に手袋等の汚染保護具を持ち込まない。

保管

適切な保管条件　:幼児の手の届かない所に置くこと。
直射日光を避け、通風の良い所に保管する。
缶が錆びて内容物が漏出、又は噴出する恐れがある為、水回り等の湿気の高い所での保管は避けること。
火気、熱源から遠ざけて保管する。
40℃以上になる所には置かないこと。
冷暗所、乾燥した場所に保管する。
転倒、転落しないように保管する。
他の薬品と同じ場所に保管しない。
その他、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めることに従う。

安全な容器包装材料　:高圧ガス保安法等の法令で規定されている容器を使用する。

8．暴露防止及び保護措置

設備対策　:取扱い設備は防爆型を使用する。
静電気放電に対する予防措置を講ずること。
排気装置を付けて、蒸気及びガスが滞留しないようにする。
取扱い場所の近くには、高温、発火源となるものが置けない設備とすること。

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
屋内塗装の場合は、自動塗装機等を使用する等、作業者が直接曝露されない設備とするか、局所排気装置などにより作業者が曝露から避けられるような設備とすること。
ﾀﾝｸ内部等の密閉場所で作業する場合、底部まで十分に換気できる装置を取り付ける。
長時間取扱う場合、給排気が十分にとれ、曝露を受けない設備とする。

曝露限界値

成分名	管理濃度（安衛法）	許容濃度		
		日本産衛学会	ACGIH(TLV-TWA)	ACGIH(TLV-STEL)
塗料原液	設定されていない	3mg/m3(鉱油ﾐｽﾄとして)2009 年度版	時間加重平均(TWA 値) 5mg/m3(鉱油ﾐｽﾄとして)2004 年度版	-
ｼﾞﾒﾁﾙｴｰﾃﾙ	設定されていない	設定されていない	設定されていない	設定されていない

保護具　必要に応じて着用する
呼吸器の保護具　有機ガス用防毒、空気呼吸器、密閉された場所では送気マスク。
手の保護具　有機溶剤及び化学薬品が浸透しない材質の手袋。
目の保護具　保護眼鏡。
皮膚及び身体の保護具　保護衣(取扱う場合には皮膚を直接曝さない様な、又、化学薬品が浸透しない材質の衣類を付けること)、(静電塗装する場合は)通電靴等。
適切な衛生対策　作業中は飲食、喫煙をしない。
取扱い後は手をよく洗う。

９．物理的及び化学的性質，危険性情報

	内溶液	噴射剤
状態	液体	大気圧下 ガス状、圧力容器内 液状
外観	青色混濁液体	無色透明
臭い	特異臭	やや甘味臭
ｐＨ	該当しない	該当しない
融点	データなし	－141.5℃
沸点	61℃以上	－24.82℃
引火点	-20℃以下	－41.4℃(密閉)
発火点	データなし	350℃
爆発範囲	1～7vol%(推定値)	3.4～27.0vol%
蒸気圧	データなし	1930mmHg(257KPa 0℃) 3800mmHg(507KPa 20.8℃)
蒸気密度	データなし	1.59(空気=1)
比重	0.767g/cm3(15℃)	0.661(20℃ 液体)
溶解性	水に不溶	7.0g/水 100g(18℃) 水に 35wt%(24℃ 5 気圧)
ｵｸﾀﾉｰﾙ/水分配係数	データなし	0.2
分解温度	データなし	データなし
蒸発熱	データなし	蒸発熱 111.64 cal/g(467.331)
揮発性	データなし	データなし
初留点	61℃	データなし
40℃動粘度	5.0mm2/s 以下	データなし
流動点	-40.0℃以下	データなし

１０．安定性及び反応性（製品として）

安定性	40℃以上になると破裂の恐れがある。 常用温度で缶内圧は約 0.44MPa。
危険有害反応可能性	水、ｱﾙｶﾘ、酸との接触で可燃性ｶﾞｽが発生する恐れがある。
避けるべき条件	高温多湿な場所での保管及び火気の近くでの使用。 水、ｱﾙｶﾘ、酸との接触を避ける。
危険有害な分解生成物	CO 等の有害なガスが発生する恐れがある。
その他の有害性情報	蒸気及びガスは引火して爆発する恐れがある。 樹脂成分は空気中で酸化し、発熱、蓄積される条件があると自然発火する恐れがある。 この製品を含んだ布・紙・ﾊｹ・ﾛｰﾗｰ・ﾀﾞｽﾄなどを堆積したり、丸めたまま放置しないこと。

１１．有害性情報（内容液について。人についての症例、疫学的情報を含む）

製品としての安全性試験は実施していない。

	急性毒性（経口 mg/kg）	急性毒性（経皮 mg/kg）	急性毒性（吸入：ｶﾞｽ）	急性毒性（吸入：蒸気）	急性毒性（吸入：粉塵、ﾐｽﾄ）	皮膚腐食性/刺激性	眼損傷性/刺激性
塗料原液	区分外	分類できない	分類対象外	分類対象外	分類できない	区分 2	区分 2B
ｼﾞﾒﾁﾙｴｰﾃﾙ	分類できない	分類できない	区分外	分類対象外	分類できない	分類できない	分類できない

	皮膚感作性/呼吸器感作性	生殖細胞変異原性	発がん性	生殖毒性	特定標的臓器（単回曝露）	特定標的臓器（反復曝露）	吸引性呼吸器
塗料原液	分類できない	分類できない	区分 2	区分 1A	区分 1（血管）	区分 1（中枢神経系、末梢神経系）	区分 1
ｼﾞﾒﾁﾙｴｰﾃﾙ	分類できない	区分外	分類できない	分類できない	区分 3（麻酔作用）	分類できない	分類できない

１２．環境影響情報

製品としての試験は実施していない

	水生環境急性有害性	水生環境慢性有害性
塗料原液	区分 1	区分 2
ｼﾞﾒﾁﾙｴｰﾃﾙ	分類できない	分類できない

★漏洩、廃棄などの際には環境に影響を与える恐れがあるので取り扱いに注意する。
特に、製品や洗浄水が地面、川や排水溝に直接流れ出ないように対処すること。
生態毒性：情報なし
残留性　：ｼﾞﾒﾁﾙｴｰﾃﾙ:BOD 4 時間:0%、TOC 4 時間:8%、GC 4 時間:7%
（化学物質管理ｾﾝﾀｰﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ 既存化学物質安全性点検ﾃﾞｰﾀ）
蓄積性がない又は低い
生態蓄積性：情報なし
土壌中の移動性：情報なし
その他：ｼﾞﾒﾁﾙｴｰﾃﾙ:炭素-水素組成であることから、光化学ｵｷｼﾀﾞﾝﾄの原因となり、その高層気象での寿命は 3～30 時間である。分解性は低い。

１３．廃棄上の注意

廃棄をする場合には、ガスを完全に抜いた後に行う。

残余廃棄物	:ガスを完全に抜いた後の内容液は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託するか又は、容器に穴を開け、珪藻土等に吸着させて開放型の焼却炉で少量ずつ焼却する。
汚染容器・包装	:中身を使い切ってから分別廃棄する。

１４．輸送上の注意

・「7.取扱い及び保管上の注意」の項を参照のこと

輸送の特定の安全対策及び条件	運搬に際しては容器を 40℃以下に保ち、転倒、落下並びに損傷がないように積込み、荷崩れの防止を確実に行う。
国内規制	
陸上輸送	消防法ほか法令の輸送について定めるところに従う。
海上輸送	船舶安全法に定めるところに従う。
航空輸送	航空法に定めるところに従う。
国際規制	
国連分類	IMDG コード class 2.1
国連番号	1950
緊急時応急処置指針番号	126

１５．適用法令

労働安全衛生法	危険物･引火性のもの、表示対象物質(ﾄﾙｴﾝ、ｲｿﾌﾟﾛﾋﾟﾙｱﾙｺｰﾙ) 通知対象物質（ｼｸﾛﾍｷｻﾝ、ﾉﾙﾏﾙﾍｷｻﾝ、ﾌﾟﾛﾋﾟﾙｱﾙｺｰﾙ、ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ、ﾄﾙｴﾝ、固形ﾊﾟﾗﾌｨﾝ、鉱油、2,6-ｼﾞｰﾀｰｼｬﾘｰﾌﾞﾁﾙ-4-ｸﾚｿﾞｰﾙ)
有機溶剤	第２種有機溶剤(ﾄﾙｴﾝ、ｲｿﾌﾟﾛﾋﾟﾙｱﾙｺｰﾙ、ﾉﾙﾏﾙﾍｷｻﾝ) 第３種有機溶剤(ﾐﾈﾗﾙｽﾋﾟﾘｯﾄ)
船舶安全法	高圧ガス、高引火点引火性液体
航空法	高圧ガス、高引火点引火性液体
高圧ガス保安法	適用除外（液化ガス、可燃性ガス） 但し、政令告示並びに高圧ガス保安一般規則規定に従う。
消防法	第四類第一石油類危険等級Ⅲ
危険物船舶運送及び貯蔵規則	IMDG コード class 2.1（UN No. 1950）。
毒物及び劇物取締法	非該当
大気汚染防止法	有害大気汚染物質(ｼﾞﾒﾁﾙｴｰﾃﾙ)
PRTR 法	第一種指定化学物質(ﾉﾙﾏﾙﾍｷｻﾝ)

１６．その他の情報

参考文献	原液 MSDS ｼﾞﾒﾁﾙｴｰﾃﾙ MSDS(三菱ｶﾞｽ化学) 化学物質管理促進法対象物質全データ 労働安全衛生法対象物質全データ 毒物及び劇物取締法対象物質全データ（化学工業日報社）
記載内容の取扱い	全ての資料や文献を調査したわけではないため、情報漏れがあるかもしれません。また新しい知見の発表や従来の説の改訂により内容に変更が生じることがあります。ここに記載された情報は情報の完全さ・正確さを保証するものではありません。全ての化学品には未知の有害性があるため、取扱いには細心の注意が必要です。本品の適正に関する決定は使用者の責任において行って下さい。